

第3回益城町「平成28年熊本地震記憶の継承」検討・推進委員会 議事概要

- ◆開催日時 2018年3月24日 10:00～12:00
- ◆開催場所 益城町仮設庁舎議会棟2階大会議室
- ◆出席者数 出席16名、欠席2名
- ◆議事次第
 - 1 開会
 - 2 第2回検討・推進委員会の議事概要
 - 3 「記憶の継承」に係る今年度の検討状況
 - 4 各専門部会における今年度の検討内容及び成果
 - (1) 第2回合同専門部会
 - (2) 震災記念公園専門部会
 - (3) 震災遺構の保存・活用専門部会
 - (4) 防災教育専門部会
 - 5 「記憶の継承」に関する来年度の取組について
 - 6 委員討議
 - 7 事務連絡
 - 8 閉会

◆議事要旨

第2回検討・推進委員会の議事概要（議事次第2）

- 事務局より、資料3に沿って説明

「記憶の継承」に係る今年度の検討状況（議事次第3）

- 事務局より、資料4に沿って、今年度の検討の流れ（各会議開催の状況等）の説明

各専門部会における今年度の検討内容及び成果（議事次第4）

- (1) 第2回合同専門部会
 - 震災記念公園専門部会長より、資料5に沿って説明
- (2) 震災記念公園専門部会
 - 震災記念公園専門部会長より、資料6-1、6-2に沿って説明
- (3) 震災遺構の保存・活用専門部会
 - 震災遺構の保存・活用専門部会長より、資料7-1、7-2に沿って説明
- (4) 防災教育専門部会
 - 防災教育専門部会長より、資料8-1、8-2に沿って説明

「記憶の継承」に関する来年度の取組について（議事次第 5）

- 各専門部会長より、資料 9 に沿って説明

委員討議（議事次第 6）

震災記念公園について

- 資料 6-2 の「飯野校区のイメージマップ」に年 1 回催す砥川の獅子舞が掲載されている。「常にあるもの」と「たまにしかないもの」を同列に扱っていることに疑問を感じる。
 - 住民からいただいた様々な資源を並列に表現した。誤解を招くようであれば、表現方法を工夫するが、年 1 回の行事であっても準備等はある。「晴れ舞台」は 1 日だけかもしれないが、準備等の期間は地域コミュニティの象徴でもあるので、できれば同列に扱いたい。
- 資料 6-2 の「木山校区のイメージマップ」に、「清正公の『加藤社』という石碑があった」という過去形表現となっているが、石碑は現存している。
 - 誤解を招く表現になってしまい申し訳ない。来年度も引き続き 1 つ 1 つ検証しながら、このマップを更新しながら充実したものにしていく。
 - イメージ化すると様々な意見が出やすくなる。記憶の継承の材料としても非常に重要。また、変化していくことも重要なことなので、これからは是非たくさんのご意見をいただきたい。
- まちおこしとして捉えたときに、今の議論は校区単位が主となっている。中心拠点については、次年度検討することだが、益城町全体を俯瞰する構想にしていきたいし、システマティックに進める必要がある。4 車線化事業や区画整理事業との連携も大事。本日の議論の中の「横串」は部会間の話だったが、町の様々な事業との連携も考えていただきたい。“復興”は町として稼げないと厳しい。町の“稼ぐ力”に繋げて、人々が生活できるような環境をつくっていくことも検討いただきたい。これまでの検討のエキスを抽出すると、“稼ぐ力”に繋がっていくと考える。
 - 昨年 12 月に砥川フットパスを開催したところ、72 名の参加があった。地元農家に声掛けて野菜を出品していただいた。3 月には上陳・下陳で同様に開催したところ、300 人超の参加があった。参加者の意向としては、横ずれ断層を見たいという目的の一方で、自分の健康のためという方もいた。このときも、野菜や団子を出品してもらい、すぐに完売した。
また、フットパスではないが、余所からのガイド依頼も出てきている。現時点で 6 件の依頼があっている。この方たちへ町内で買物等を促すよう働きかけをしており、少しは町の潤いに繋がっている。しかし、町内に買物をする場所が少ないので、経済効果はそれほど大きくはないかもしれないが、徐々に“稼ぐ力”に繋ぐ動きが出てきている。

震災遺構の保存・活用について

- 資料 7-2 の震災遺構リストNo.1 について、納屋は一体として国天然記念物に指定されて保存されるが、母屋は指定されていない。今後の取扱いはどうするのか。
 - 谷川の断層に関しては、国の天然記念物に指定されているので、来年度、別途設置する天然記念物保存に関する委員会で決めていくこととなっている。
ただし、被災した母屋の解体はやむなしとしても、そこで生活されていた雰囲気だけでも残して行けるよう検討していく。

防災教育について

- 熊本県で震災関連の道徳教科書を策定しており、各小学校に配布されている。単なる道徳の教材ではなく、非常に優れた防災教育の内容が含まれている。何とか防災教育に活かせないかと考えている。
 - 県教材を部分的には拝見した。道徳だけで使用するにはもったいない内容。地域住民とも一緒に勉強するなど、様々な場面で活用できると考えている。
- 資料 8-2 内の自主防災組織の記述について、「校区単位と地区単位で設立したことで、メリット・デメリットを可視化できた」とある。現時点で見えているものがあれば教えていただきたい。
 - 校区単位の場合、エリアが分かりやすいが、エリアが大きいために様々な地域組織を網羅するための認知を進めていくことの難しさがある。学校が避難所に指定されているので、避難所運営の実用性に繋がりがやすいというメリットがある。しかし、自主防災組織を立ち上げたということを周辺住民が知ることが大事なので、その認知のためには小さい単位で組織した方が良い。

全体・その他

- 第 1 回委員会からの短期間でこれだけまとめられたことに敬意を表する。来年度の取組について資料 9 で部会毎に説明いただいたが、同時に説明の中で「横串」という表現も繰り返し出てきた。来年度も横串的な活動に努めていただきたい。
- 各専門部会の活動状況について非常に心強く感じたところ。この検討を町の産業やまちづくりにどのように繋げていくかを一所懸命考えていく必要がある。記録を残す、教育に繋げることに加えて、産業や行政に繋げていくための議論も続けていただければ幸い。
 - 防災教育の枠組みを作っても、次の災害に備えるということを考えると、20 年・30 年単位で継続して取り組んでいくことが求められる。現状の教育委員会の体制は各年度で教育に取り組むという観点になってしまう。複数年度、他組織との連携を進めるという観点で管理をする機能は今の教育委員会にはない。そのような担当職員を置くなどの体制強化は必要。

- 観光や農業は重要な産業。コミュニティビジネスとして地域住民が「稼ぐ」仕組みをつくる、教育旅行で人を呼び込むことも大事なので、記憶の継承の「活用」についても今後検討していく。
 - 来年度の取組の中で、中心拠点のあり方と来訪者の受入はリンクしてくると思っている。また、観光はシステムティックに考える必要がある。たとえば各校区にバラバラに駐車場等をつくるのは非効率だし、景観も壊れてしまう。交通ネットワーク等とも合わせて議論していくことが必要。
- 遺構だけを残しても、そこに訪れる人は限定されてしまう。そこに観光農園や物産館を絡めるなども今後の取組の一つとして考えられる。
また、自主防災組織では要援護者を如何にして安全に避難させるか、避難所で生活してもらうかという観点を中心となる。何か起きたときに本当に役に立つ組織を作っていくことが大事。
 - 防災教育のメカニズムを理解するだけでなく、自分の身を守るという“自助”、地域の活動に参加するという“共助”についても、学校教育の中で進めていく。学校を中心に地域とともに避難所運営について考えることについても取り組んでいく。
- 第3回語り部シンポジウムが南三陸で開催された。次回は熊本で開催したい。全世界への発信の動きもある。事実をしっかりと伝えることの難しさについて、シンポジウムに参加した語り部の方々が語っていた。語り部の研修等についても取り組んでいただきたい。
- 先日、益城町内のまちづくり協議会が集まったまち協サミットが開催されたところ、13地区の参加があった。参加者は全て前向きで、「次はこういことをしたい」という意見がたくさん出た。各地域が抱える課題は違うものの、元気を出されている。住民も、行政も、ヨソモノも、皆が一緒になって頑張っていきたい。住民の様々な動きは非常に重要であり、これらについても記録していきたい。
- 事業の連携は常に意識しているが、ゲリウ的にしか動けていない。復興に関する様々な検討が進んでいるが、その検討の場に参加させていただきながら、記憶の継承の観点で意見を言っている。議会とも連携させていただきながら、横串として機能できる体制や立場があると、もっと動きやすい。国の天然記念物について動き出したときに、正式に要望書を出せるような体制を敷いていただきたい。
- 震災からまだ2年なので、経験者が多いし、記憶の継承に向けた議論もある。記憶の継承として今後議論していくべきは、30年後、50年後にも繋がっていく仕組みをつくり、“熊本地震を経験していなくても語り部ができる人”をどのように育てるかが大事。また、記憶の継承について議論していることを住民にもっと発信していきたい。そのような場を検討いただきたい。
- 復興計画で「協働」が謳われている。住民や行政、また我々もそれぞれの立場から努力し、地域の方と一緒に草の根的にやれる限りのことをやっていく。このような取組をアピールする場を委員長の方で是非つくっていただきたい。

- 行政は4月に異動があると思うので、時間をいただきながら、横串や住民の方々への発信について宿題として検討していく。

事務連絡（議事次第 7）

- 事務局より、今後の日程について、下記の内容を案内
 - 本委員会は次年度以降も継続する。次回は8月頃に開催予定。

以上